

大阪府教育委員会 完了報告書

1. 調査研究概要

各小学校では平成29年度に引き続き、学習指導要領に定められた内容を踏まえながら、児童の学びの質を高める授業をどのようにすすめていくのか、児童や学校、地域の実態に応じた時間割等の工夫を行ってきた。平成30年度は、平成29年度に定めた方向に向かって取組みを進めた。概要は以下のとおりである。

- (1) 週当たりの授業時数や一単位時間の授業分数について
 - ・15分を活用して、短時間や60分の授業を実施する場合の実施教科・方法等
- (2) 調査研究校における効果的な教材や指導計画等の研究
 - ・大阪府公立小学校英語学習6カ年プログラム「DREAM」の活用
 - ・『ことばのちから』（大阪府教育庁作成）の活用
- (3) 調査研究校の研究内容を共有、協議・検討するためのカリキュラム・マネジメント検討会議の開催
- (4) 小学校のカリキュラム・マネジメントを円滑に進めるための手引き～教育効果を高める「時間」の設定～の作成、府内小中学校へ発出

(年間実施スケジュール)

月	取組み内容
4月	調査研究校の訪問（取組みの進捗の確認）
5月	2018 AL&カリマネサミット（文科省）で府の取組み経過報告
6月	和泉市、茨木市教育委員会より聞き取り（取組みの進捗の確認）
7月	カリキュラム・マネジメント連絡会（取組みの進捗確認及び共有）
8月	
9月	
10月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（取組みの進捗確認及び共有）
11月	
12月	
1月	茨木市、和泉市教育委員会より聞き取り（取組みの進捗の確認）
2月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議（大阪府 カリキュラム・マネジメントフォーラム）（取組みの報告、府内への普及）
3月	

【和泉市立国府小学校】

2-1 調査研究の内容

平成30年度は、児童（特に支援学級に在籍する児童）の負担軽減を優先し、今までの週時程からの変更をできるだけ少なくすることに重点を置いて考えた。

短時間の授業では、週3回（朝の時間15分）、①3年生以上の全クラスで必ず実施する②効果的な内容である、という観点から、国語科の新出漢字学習や、漢字小テスト、並行読書、発表等を行った。（3年生については、ローマ字の習熟などにも活用した。）

新出漢字指導については、各学年で、国語科の単元指導計画と新出漢字の配当表を突き合わせ、無理がないか、単元指導計画に沿ったものかを定期的に検討した。並行読書については、物語文教材をピックアップし、同じ作者の書籍を計画的に収集した。発表についても同様に、年間の指導内容から発表に重点を置く単元を決め、45分の授業で内容を練り上げ15分で集中して発表する等、短時間の授業を組み込んだ単元構成を計画した。

昨年度の調査研究より、15分という限られた時間での外国語の指導は、「従来のPatern & P practiceだけではない外国語活動」の授業においては、有意義な授業展開につながりにくいという結果が得られたため、今年度は、外国語活動を通常の45分の授業で行い新学習指導要領に沿った授業展開（主体的・対話的で深い学び）を心掛けた。今年度は英語専科の配置があったため、英語専科とALTが各クラスに均等にに入れる機会を設定したいと考えたときに、短時間の授業でその機会を設定することは非常に困難だったこともある。

1・2年生については、短時間の授業を利用して、府の英語教材「DREAM」を活用した。週一度、「DREAM」を活用し英語に親しむことを重点とした。全教員が「DREAM」を活用して指導できるよう、H29年度から外国語担当を中心に幾度も研修を重ねたことから、スムーズに実施できた。ただし、教科書と「DREAM」の関連性が明らかでないことから、今後本校では「DREAM」を低学年での、外国語に親しむ目的での活用に特化する方向である。

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

（子どもの視点から）

アンケート結果より、「45分の国語授業において、漢字指導に時間を割かずに済むため45分間ずっと物語の世界に没頭できてよい」等、概ね好印象。継続して行っていく。

（教職員の負担の視点、校務運営の視点から）

アンケート結果からも、大きな負担なくスムーズに実施できていることが確認できている。校務運営の点からも、短時間の授業の実施カウントを各担任が校務用パソコンに毎日入力し、教務主任が1ヶ月に1回チェックする体制が構築できている。

（地域との関係の視点から）

今年度より「病院と連携したガン教育」を新しく実施する等、地域の教育資源の活用を図っている。

2-3（実践校における年間実施スケジュール）

月	取組み内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間の授業による各学年の年間新出漢字配当表を含めた年間指導計画や、単元計画をもとにした短時間の授業の指導計画表を教員に提示。 ・「モジュール（新出漢字）を実施するにあたって」を各クラスで指導。 ・各学級の時数カウントデータに、短時間の授業カウントデータを追加し、正確に時数をカウント。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画表に基づき、実施。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画表に基づき、実施。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画表に基づき、実施。 ・新出漢字に係る「短時間の授業」運用について職員・児童アンケートを実施。

8月	・ 1学期配当表と実施記録を突き合わせ、単元指導計画との妥当性を検討。 ・ 2学期計画表の修正。
9月	・ 計画表に基づき、実施。
10月	・ 計画表に基づき、実施。
11月	・ 計画表に基づき、実施。
12月	・ 2学期配当表と実施記録を突き合わせ、単元指導計画との妥当性を検討。 ・ 3学期計画表の修正。 ・ 保護者アンケートの実施。
1月	・ 計画表に基づき、実施。
2月	・ 計画表に基づき、実施。
3月	・ 次年度に向けて、課題検討→次年度配当表の作成 ・ 1年間の振り返りの児童・職員アンケートを実施。

【和泉市立伯太小学校】

2-1 調査研究の内容

【時間割編成】高学年は外国語（移行期だが70時間実施）、中学年は国語で短時間の授業を実施した。朝の短時間の授業は1時間目の前の時間を15分間から20分間（朝の健康観察5分を含めた20分）へ変更し、児童への影響や教員の反応、地域や保護者からの意見を集め、集約した。

【外国語】高学年は週3回、学年で統一して、短時間授業で「DREAM」も活用しながら、担当が中心となり、指導内容を学年でそろえた。児童が英語のフレーズを覚える、ふと歌を口ずさむなど、英語に親しみを持つようになった。「振り返りカード」を、記述式から短答式（学習指導要領の観点に沿って記号で答える形式）に見直した結果、回答や評価の負担が減った。英語に毎日ふれる（短時間ではあるが）ことによる児童の意識の変化や、慣れ親しみの様子を最終日に実施したアンケートにより検証した。

【国語】中学年では、学校として統一して取り組んでいる音読教材や、漢字の反復学習などを組み合わせて計画を立て、短時間の授業を実施した。書く単元では大阪府教育庁作成の「ことばのちから」を活用した。

【算数】毎週水曜日の短時間の授業において、計算学習を実施することに加えて、文章問題などの「考える問題」も取り入れた。年度前半は計算問題を中心に実施し、年度後半は考える問題を使用した短時間の授業を継続的に実施した。

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

（子どもの視点から）

【時間割編成】業間や給食等の時間配分は変えずに全体を5分ずらした。児童は違和感なく取り組めた。ただ、朝の読書の時間がなくなり、読書量は減少傾向にある。また、行事と重なった場合、児童の負担となる。時数の確保と負担の軽減、行事との調整が課題。

【外国語】引き続き「DREAM」を活用しながらスムーズに研究を進められた。ただ「DREAM」のグレードが上がる中、児童の興味関心の度合いに差が出てきている。授業では、ALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られる。短時間授業で毎週外国語の授業が入り、習ったフレーズや単語を忘れることが少なくなり復習の時間が短くなった。

【国語】「ことばのちから」を用いて作文指導を行うことで、児童が書く力をつけた。

【算数】課題であった「活用力を問われる問題」にも取り組んでいるが、数値としての結果が出ていない。短時間の授業で全問解き終わる児童が少ない。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

【時間割編成】行事や朝礼と短時間の授業が重なる時期があり、継続して取り組むことの難しさがあつたため「実施時期の整理」が課題である。

【外国語】ALTの勤務時間の問題があり、担任と話す時間が限られているため、打ち合わせの時間がなかなか確保できないのが課題である。

【算数】「活用力が問われる」問題の教材開発と活用方法が課題である。

(地域との関係の視点から)

・今後、英語に堪能なPTAの方等を招いての出前授業等を行っていききたい。

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組み内容
4月	カリキュラム・マネジメント研究調査事業の平成30年度の方針や内容・研修方針を職員に説明。年間計画の作成、外国語活動、国語、算数の短時間授業の開始。
5月	本年度実施する授業の研究を、ALTを含む職員で取り組む。4～5月の取組みについて職員へ「授業アンケート」実施。児童へも「授業アンケート」を実施。
6月	校内研究で外国語の15分、45分・60分のそれぞれのパターンでのよりよい授業検討のため、職員とALTによる外国語授業研究を実施。
7月	学校で現在実施している短時間の授業について家庭・地域に情報発信(学校だより)。
8月	外国語、国語、算数等の短時間の授業について、1学期の実施分の反省をふまえ、授業改善をはじめとした教材活用等の職員研修会を実施。
9月	8月の取組み内容を授業に反映し、職員研修を実施。
10月	2週間連続外国語活動に特化した短時間の授業の活用。
11月	2週間連続した外国語活動に特化した短時間の授業の効果検証。(児童と職員へアンケートを実施)
12月	2学期の取組みについて職員アンケート実施。 外国語活動、国語、算数等の短時間の授業の内容の検討。(15・45・60分のそれぞれの授業の検討)
1月	職員及びALTと外国語活動の授業検討・来年度に向けての研究討議会実施。
2月	地域との意見交換。(地域教育協議会に情報発信と協力依頼を行なう) ALTとの授業・来年度年間計画作成、保護者アンケートの実施。
3月	カリキュラムにおける短時間の授業対応の検証。 本年度調査の反省と次年度に向けての検討会。

【茨木市立春日小学校】

2-1 調査研究の内容

平成29年度に研究した時程を1年間実践することで、長期間の実践から見えてくる課題や改

善点について考えていく。カリキュラム・マネジメントの校内研修では、学校で行うカリキュラム・マネジメントや学年のカリキュラム・マネジメント、学級のカリキュラム・マネジメントについて講師から教わり、学校経営や学級経営についての考え方を全職員で共有し確認した。3、4年生の短時間授業では、国語の教材の効果的な学習内容を日々の実践から検証していく。国語の短時間授業では短時間扱いの単元で、15分×3分割して行う授業形態を実践した。短時間授業の効果的な学習方法として、国語以外の教科で授業内容を検討していく。（以下、実践例）

（15分の短時間の授業例）

「図工」…作品の鑑賞、交流 「音楽」…リコーダーの練習、鑑賞、歌唱練習

「算数」…小テスト、計算練習、作図の練習

「理科」…自然現象などの観察、確認

「社会」…都道府県の学習、地図記号の学習、小テスト（都道府県、地図記号）

（60分授業～15分+45分の連続型60分授業～）

「道徳」 「体育」…とくに器械運動、ハードル走など準備～片付けも視野に

（60分授業～15分、45分分離型60分授業～）

「体育」…運動会のダンス、器械体操、水泳指導など

（すべての教科等で実施できる視点から）

「視聴覚教材の活用」…実技教科の実演VTR、DREAM、パワーポイント資料の活用など

「認知トレーニング」…視覚認知、聴覚認知など

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

（子どもの視点から）

昼の短時間授業は、清掃活動の時間と重なり、チャイムで一斉に授業を始めることができない日があった。短時間授業がない日は、昼休憩を30分にしたため、楽しみに思っている児童が多かった。国語の短い単元を分割して短時間の授業で行う場合、支援学級で学習している児童の学習の準備などの調整が難しい。様々な教科で、短時間の授業を実施する場合、毎回学習内容や学習形態が変わるので、見通しを持つのが苦手な児童にとって、安心して学校生活を送れず、情緒の安定に課題がある。

（教職員の負担の視点、校務運営の視点から）

国語を短時間の授業で実施する場合、1時間を3分割するので、教材研究に時間がかかる。国語以外の教科では、個人のカリキュラム・マネジメント能力に大きく左右される。様々な教科で短時間授業をする場合、時数の計算や管理が大変になる。また、支援学級との連携や調整が複雑になる。

2-3（実践校における年間実施スケジュール）

月	取組み内容
4月	昼の短時間の授業時程の導入 対応したカリキュラム作成（英語・国語）
5月	昼の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語）
6月	昼の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語）

	カリキュラム・マネジメント校内研修（甲南女子大学：村川先生）
7月	昼の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語） 朝の短時間の授業時程の提案
8月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語） カリキュラム・マネジメント校内研修（奈良教育大学：赤沢先生）
9月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語） 先進校視察
10月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語） 国語以外の短時間の授業に対応したカリキュラム作り 60分授業の提案
11月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語・他教科）60分授業の実践 カリキュラム・マネジメント校内研修（目黒区立烏森小学校：村尾校長）
12月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語・他教科）60分授業の実践
1月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語・他教科）60分授業の実践
2月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語・他教科）次年度カリキュラム作成 次年度の時程検討 60分授業の実践
3月	朝の短時間の授業時程の実践 対応したカリキュラム実践（英語・国語・他教科）次年度カリキュラム作成 次年度の時程検討

【茨木市立太田小学校】

2-1 調査研究の内容

【時程】今年度は「朝学習」の時間を短時間の授業に変更し、下校時刻を5分遅らせた。年度途中で時程を変更するかどうか検討し、児童・教員ともに負担の少ない朝の時程で継続することとした。当初は職員朝会ができないことへの不安もあったが、その他にかわる方法も活用し、大きな混乱なく実施できた。

【国語】昨年度は、「ことばの力」をもとにした、語彙を高めるワークシート作成を研究してきた。記録に残すためモジュールファイルを活用した。今年度はその内容を、教科書とリンクさせることについて研究を進めた。研究にあたり、領域を「書く」に限定した。（「伝統的な国語文化」「漢字」は取り扱わない）。しかし、研究を進めるうちに「短時間の授業をどうするか」だけでなく、「より効果的に教育課程を編成するために短時間の授業をどう活用するか」へ意識が向くようになった。最終的には、短時間の授業で行うと効果的・効率的な単元を学校全体で共有し、そのエッセンスにもとづきカリキュラムを再編成することができた。

【外国語】本年度も、45分授業とリンクした短時間授業を研究した。年度初めに、全教職員で「単元のゴールを見据えた、短時間の授業を含んだ単元計画の作成」について再度共有した。毎日外国語に触れることで単語やフレーズに習熟し、児童が自信をもって活動できた。また今年度は「読む・書く」も短時間の授業に組み込み、充分慣れ親しんだ単語を文字とつなげることも意識して取り組むようにした。音声による指導中心にアクティビティーを取り入れながら、意欲的に「書く」ことにも取り組むことができていた。

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

児童アンケートでは、「短時間の授業」を「頑張った」と回答している児童が9割超、「自分のためになっている」と回答した児童が9割弱、「授業の一部と思う」と回答した児童が8割弱となっており、全体として意欲的に取り組めたととらえている。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

今年度も、研究を「研究推進部」と「外国語活動部」で進めてきた。「外国語」は、週1コマを分けるというわかりやすさと、その研究に専念できる点で、取組みを進めやすかった。「国語」は、教科の特性上、短時間に向かない単元もあり、学校としての取組みとして掲げる内容を研究するのは負担だった。「ワークシート作成にかかる時間が多くかかった」こと、「分けることで効果の得られる単元を国語の年間のカリキュラムから探し出し、その内容を3つに分けるのに時間がかかった」こと、「その方法を教職員で共有し、全体で前向きに進めるにはたくさんの課題があったこと」などで、負担がかたよったことが課題である。

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組み内容
4月	3日 校内研修「学びの春」 モジュールの紹介 25日 外国語校内研修「モジュールの作り方・モジュール内容を考えるワーク」
5月	23日 職員会議「カリマネ今年度の計画の確認」
6月	28日 国語校内研修「モジュールを教育課程の中に位置づけるために」 ～元京都女子大学教授 吉永 幸司 氏
7月	中旬 モジュールアンケート (児童・教職員)
8月	23日 外国語校内研修「モジュール内容を考えるワーク」 ～関西大学教授 竹内 理 氏
9月	19日 職員会議「次年度時程の検討」
10月	19日 職員会議「モジュール進捗状況についての確認」 30日 カリキュラム・マネジメント校内研修会「国語研究授業」 ～元京都女子大学教授 吉永 幸司 氏
11月	29日 支援校内研修「すべての子どもたちが楽しく『わかる・できる』授業づくりを目指して」モジュール学習も検討含む ～豊中市立緑地小学校 教諭 橋爪 英幸 氏
12月	5日 校内検討「カリマネ会議」 17日 職員会議「モジュール学習の組織的な位置づけの確認」 19日 市内モジュール研究会発表
1月	中旬 次年度に向けて ブロック合同学習アンケート 23日 職員会議「次年度モジュール曜日の検討」
2月	上旬 モジュール作成ミニ研修会 12日 府教育庁主催「カリキュラム・マネジメントフォーラム」
3月	中旬 次年度に向けて最終確認

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

(子どもの視点から)

- とりわけ支援を要する児童にとって、時間割の急な変更は負担になることから、短時間、長時間、また従来通り45分を組み合わせた時間割の作成について、長期的な視点で単元の計画を立てることが必要であると明確になった。時間割の変更等がある場合は、事前に子どもたちに伝える等の意識が浸透し、その結果、児童の負担軽減につながった。
- 言語能力の育成という視点での短時間の授業の取組みは、検証テストの結果から子どもたちに力をつけることがわかった。国語科の漢字や並行読書、また、府作成教委材「ことばのちから」を活用するなど、教科横断的な視点で計画を立てて進めると効果的である。
- 府が作成した教材である「DREAM」は15分単位で指導内容が構成されており、単元に計画的に組み込み、短時間で学習することで、子どもたちにも取り組みやすく、力をつけることがわかった。

(教職員の負担の視点，校務運営の視点から)

- 短時間の授業を効果的に実施する観点から、教職員の打合せを綿密に行う必要が出てきた。行事のすぐ後にふりかえりを行うなど、会議にかかる時間を短縮しつつ、より効率的な研修会等の持ち方を工夫する必要があり、以前よりも効率的に会議、研修会を行えるようになった。
- 教育効果を検証しつつ、カリキュラム・マネジメントを進めるには、教員の共通理解とカリキュラムの工夫が必要であり、時間がかかる。研究校以外でその確保は課題。
- 教職員の負担軽減の視点からのカリキュラム・マネジメントのあり方については、研究校だけでなく府内全体に広めていく必要がある。

(地域との関係の視点から)

- 時程を変更するにあたり、地域の理解・協力のもとに変更を進める必要があり、学校の教育活動のあり方について、地域の方にも共に考えていただく機会となった。

(設置者（教育委員会など）の視点から)

- 「外国語」（高学年）、及び「国語」の短時間の授業については、調査研究校の取組みから、他校でも導入可能な取組み事例を創り出すことができた。
- 「短時間の授業」を目標ではなく、手段として捉え、教育的効果の検証をふまえ、学校教育全体の中に位置づけることを意識することで、新学習指導要領がめざすカリキュラム・マネジメントの推進に向けて具体の例を示し、理解を深めることができた。